



4.お気に入りのデザイナーズ家具や照明が空間を彩るLDK。窓はすべて高断熱のLow-E仕様で陽差しをカット。南側の窓が大きくても軒が深いので、太陽の位置が高い夏は陽差しをさえぎってくれる

5.「G」のフローリングは満足に心地よく、冬は木の温もりで暖かみを感じる」と夫妻。LDからキッチンが見えないように、キッチンカウンターを高めに設定し、生活感が出ないように配慮した。6.造り付けの背面収納はオリジナル。吊り収納と下部収納の間は、電子レンジなどの家電が収まる高さにしてすっきりと



5



8.テラコッタタイルを張ったおしゃれな玄関。土台と基礎の間の換気をしっかり行い、その上部に当たる土に断熱材を敷き詰めた

7.玄関ドアは断熱性のあるレッドシダーのむく材を使ったオリジナル。サイドの窓は、高断熱のLow-E仕様の複層ガラスを採用した



7

1.断熱材を敷き詰めた床の上には、足触りのよい天然パインのむく材を張り、自然塗料を塗って仕上げた。天井の一部やキッチンカウンターにレッドシダーを張り、ナチュラル感を高めて。壁際のカウンター下に設置したのが蓄熱暖房。冬は遠赤外線ですばやく暖めてくれる



PART 2  
四季を楽しむ  
パッシブハウス

CASE-02 岡山県・Mさん

高い気密・断熱性を活かして憧れの大空間を実現。  
開放感とおだやかな四季の変化を楽しむ住まい

延床面積118.95㎡ 本体工事費1594万円

「のどかな環境で、子どもたちと一緒にゆったり快適に暮らしたい」とMさん夫妻は、開放感と過剰しやすさをコンセプトに家づくりを開始した。早速、設計担当者に相談すると、「建物の気密性や断熱性を高めておけば、大きな空間をつくっても、室温を均一に保ちやすく、夏も冬も快適で過ごしやす」と聞き、高気密・高断熱の家をつくることにした。

完成した住まいは、「リビングをできるだけ広くしたい」という夫妻の希望を叶え、約25畳のLDK+和室を中心としたオープンなつくり。リビングに階段を配置し、階段前の間仕切り戸を開ければ、上下階も一体感のある空間となるようにした。また、「全居室を南側に配置した」というだけあり、どの部屋も、断熱性能の高いガラスをはめた大きな窓から、心地よい陽が入って明るく開放的だ。

Mさんは、天気の良い日は窓を開け、自然の風を感じながら過ごす一方で、子どもたちは家の内外をのびのびと遊ぶ。汗だくになれば窓を閉めてエアコンを使うが、「前の賃貸住宅では、エアコンを約18度に設定していましたが、今は部屋も広くなったのに、26〜27度ですぐ涼しくなります。エアコンを使う時間もぐっと減りましたね」と、想像以上の快適さと「省エネ」という思わぬメリットに、夫妻は満足そうに笑った。



2.白いスチールが波打つようにデザインされたリビング階段は、夫のお気に入り。3.階段の手前に扉をつけて間仕切りを。開めれば、2階にLDKの冷気や暖気がいかず、LDKを快適に保てる。階段のキッチン近くに取付けた窓を、デッキ側の窓と一緒に開ければ、心地よい風が通り抜ける